

2024年度環境活動レポート (2024.1～2024.12)



株式会社 日広鍍金工業所

2025年2月20日

事業の概要

1. 会社概要

商 号 : 株式会社 日広鍍金工業所
所 在 地 : 〒422-8058 静岡県静岡市駿河区津島町15番23号
TEL 054-282-7003 / FAX 054-284-7541
設 立 年 月 : 昭和43年5月
資 本 金 : 1000万円
代表取締役社長
統括責任者 : 古林 克匡

2. 環境管理責任者／連絡先

管 理 部 長 : 古林 由記子
E メ ー ル : nikko-m@gamma.ocn.ne.jp
U R L : www.nikkoumekki.co.jp

3. 事業内容

鋼材への電気亜鉛めっき
環境にやさしい三価クロメート処理／大型資材への表面処理

4. 対象範囲

全社取組

本社・工場: 静岡市駿河区津島町15番23号
倉 庫: 静岡市駿河区西中原1丁目3-10

5. 事業規模

	2022年	2023年	2024年
生産高 (百万円)	167	162	161
生産量 (トン)	1485	1442	1147
従業員 (人)	14	14	14
床面積 (㎡)	1533.87	1533.87	1533.87
倉庫 (西中原)	496.03	496.03	496.03

2022年(2022年1月～2022年12月)

2023年(2023年1月～2023年12月)

2024年(2024年1月～2024年12月)

環 境 方 針

株式会社日広鍍金工業所は地球環境に配慮した「事業活動」を通し地域社会に対し責任ある行動を取り、環境経営の継続的改善を誓約します。その為に以下に掲げた「環境経営」に取り組み、地球環境保全に貢献します。

1. 環境負荷の削減

製造工程で発生する不適合品の再加工処理のムダを削減し、以下の排出の削減に取り組み環境負荷を低減します。

- ・ CO2 排 出 量 の 削 減・・・電力量及び化石燃料の削減
- ・ 化学薬品の使用量削減・・・再処理加工の削減による薬品の使用量を削減
- ・ グリーンプールの推進・・・事務用品の購入品見直し
- ・ 特別管理産業廃棄物の削減・・・廃酸・廃アルカリの削減(液寿命延命の対策)
- ・ 排 水 量 の 削 減・・・必要最低限の使用量で排水量を削減
- ・ 事業系一般廃棄物の分別を積極的に行いリサイクル実施に取り組みます。
- ・ 地域の環境活動に積極的に参加します。

2. 法規制の遵守

環境関連の法規制、その他の要求事項を遵守し、技術的・経済的に可能な範囲で環境汚染の改善予防に努めます。法規制の情報をいち早く入手し、法規制該当の有無を確認し速やかに対処します。

3. 従業員の環境に対する教育

定期的な教育研修により環境への取り組みを周知させ、社員の環境活動への取り組みの向上に努めます。

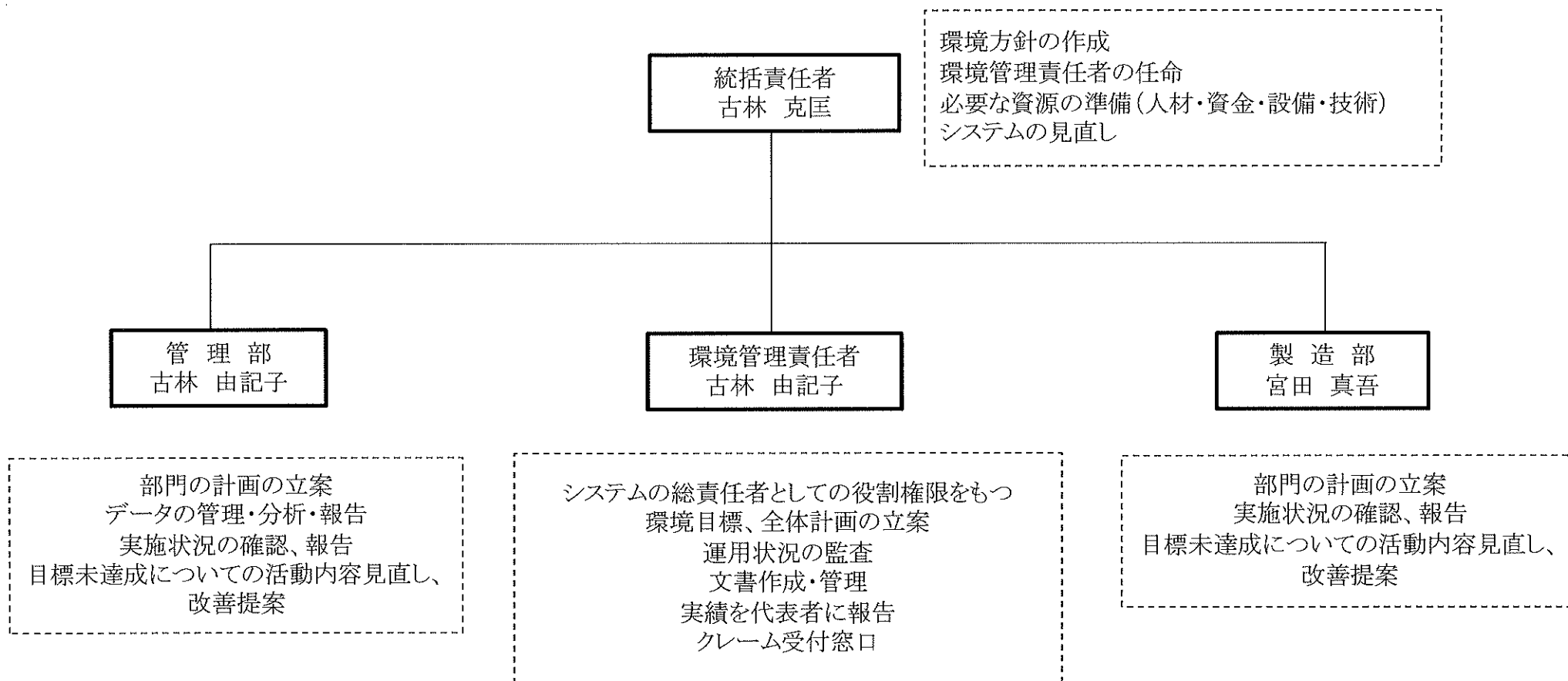
この環境方針を社内に掲示し全従業員に周知し、意識向上を目指します。

改訂：2022年2月1日
制定：2006年12月1日
株式会社 日広鍍金工業所
代表取締役 **古林 克匡**



(株)日広鍍金工業所 組織図(2024.4.1制定)

代表取締役
古林 克匡



環境目標及び2024年実績

2021年度の実績を基準にして引続き環境負荷物質の削減に取り組めます。

1.目標(2024年2月20日策定) 中部電力二酸化炭素排出係数0.406を使用

生産量1tあたりの排出量及び使用量が目標値以下になる様、活動に取り組む

	CO2排出総量	CO2排出量	産廃排出量	化学薬品使用量	排水量	グリーン購入の推進	クレーム件数
2021年(基準年度)	335908kg-CO2	195.43kg-CO2/t	19.76kg/t	43.29kg/t	137.91m³/t	70%	0件
2024年目標値	322472kg-CO2	188kg-CO2/t	19.0kg/t	41.6kg/t	132m³/t	74%	0件
2025年目標値	319112kg-CO2	186kg-CO2/t	18.8kg/t	41.1kg/t	131m³/t	74%	0件
2026年目標値	315753kg-CO2	183kg-CO2/t	18.6kg/t	40.7kg/t	129m³/t	75%	0件

2.実績値/評価 評価:◎良い/○普通/▲再徹底/×改善

		生産トン数	CO2排出総量	CO2排出量	産廃排出量	化学薬品使用量※	排水量	グリーン購入の推進	クレーム件数
上期	実績値	530.12	106524.37kg-CO2	200.94kg-CO2/t	4.4kg/t	53.14kg／t	181.2m³/t	72%	0件
	評価		◎	○	◎	▲	▲	○	◎
下期	実績値	617.56	109199.91kg-CO2	176.82Kg-CO2/t	19.17kg/t	48.16kg／t	161.5m³/t	73%	0件
	評価		◎	◎	○	▲	▲	○	◎
年間	実績	1147.68	215724.28kg-CO2	187.96kg-CO2/t	12.35kg/t	50.46kg/t	170.6m³/t	72.5%	0件
	評価		◎	◎	◎	▲	▲	○	◎

※ 化学薬品使用量は生産に使用した分全てを含む(57,915kg/年)

総評(活動の改善・気付き)

【CO2総排出量】	総排出量については目標を達成できたので、今後も継続していく。
【CO2排出量】	販売価格の値上げにより生産トン数の算出基準を修正、それにより昨年と比較すると生産高に比べ生産トン数が少なくなり目標値一部超えることになった。 今後も値上げする製品があるため、生産トン数においての排出量目標から総排出量目標で活動を行っていくことを検討する。
【産業廃棄物量】	生産数が少ないため、廃棄物量自体は削減できた。 → 記録の保管期間経過している書類を廃棄するため、来年度は廃棄物量が増加する。
【化学薬品使用量】	薬品の更新頻度が客先へ提出している工程表に明記されており、品質低下防止のため更新頻度の変更が困難
【排水量】	生産トン数基準見直しの影響で目標値を大きく上回ってしまった。 → 生産トン数/排水量から総排水量での目標値設定を検討する。
【グリーン購入】	グリーン電気を購入、今後も積極的に環境対応商品を見定めて購入する。
【クレーム】	環境関連でのクレームはなく目標を達成できた。 法令違反もなく今後の工場運営に問題はないと判断。 →化学薬品の取り扱い、法令順守を徹底し地域住民からのクレームが発生しないように運営していく。

環境活動実施状況及び評価・次年度への取り組み

評価:◎良い/○普通/▲再徹底/×改善

活動目標		実施状況		取り組み状況	改善の有無	次年度への取り組み
1	営業時間(残業)の短縮、休日の確保	上期	◎	残業(前期平均)28時間/月、短納期等は事前打ち合わせ通知	継続	残業30時間以内/月 休日2日/週
		下期	○	残業(後期平均)31.5時間/月、通常納期を5日とし顧客へ通達した		
	稼働時間の削減	上期	○	見積、発注依頼時に納期を提示することで生産効率をあげる	継続	残業30時間以内/月 休日2日/週
		下期	○	事前に持込・発注予定を連絡くれるようになり作業効率の運用ができています		
	空輸送をトラック稼働の20%に抑える	上期	○	メイン顧客の荷量が減少、他顧客への納品にトラックを回した	継続	ドライバー確保
		下期	◎	荷量の調整、運送代確保できる顧客を優先		
2	不適合品率(不良数/生産数) A.K.S製品1.0%以内・B製品2.0%以内	上期	▲	不良が増加傾向にある、工程を再確認、作業者教育(都度)	有	検査員への教育 治具等備品の劣化防止
		下期	▲	新規製品の試作などがあるため、設備、治具などのメンテナンス実施		
	業者への委託(年間の委託数) 汚泥3件、三価1件、混合廃棄物2件	上期	○	顧客持込時の梱包材が廃棄物が多かった(野外保管のため、水濡れ防止)	有	過剰梱包を防止する
		下期	○	製品保護ビニールの排出量を減少していく		
3	自社で液分析をし必要な分のみ注文する	上期	○	過剰在庫の見直しを行った 液分析を定期的に行っていることを確認した	継続	担当が変わることにより 分析に慣れるまで 時間がかかる可能性あり
		下期	○	分析頻度が減少、薬品補充が確実に行われるようにする(人材確保)		
4	法令順守、外部業者の抜き打ち検査	上期	◎	排水処理ORP計、Ph計の自主点検実施確認、 排水の結果、環境測定は基準値以内であり法令順守できている	継続	現状を維持する
		下期	◎	排水処理ORP計、Ph計の自主点検実施確認、 排水の結果、環境測定は基準値以内であり法令順守できている		
	設備メンテナンス	上期	○	業者による法令点検を実施し、不具合箇所を事前に修理した	継続	メーカーの定期点検を 今後も実施する(夏前)
		下期	◎	漏電による設備不具合、火災等を防止するため修繕工事実施した(10月)		
5	梱包用品の節約、グリーンマーク製品の購入推進	上期	○	資源をリサイクルしながら節約できている	継続	現状を維持する
		下期	◎	グリーン電気を契約(12月より)		
6	法令順守、地域の活動に積極的に参加する	上期	○	環境0件、品質2件	継続	環境のクレームは 発生していない
		下期	◎	環境、品質ともに0件		
	毎日の終礼、1回/3ヵ月の製造部会議	上期	○	薬品分析要員の退職により早急に後任の教育を実施	有	終礼を有効に活用する 従業員の確保
		下期	▲	慢性的な人手不足で会議に時間が割けない状態である		

2025年度環境目標及び活動計画

2024年度の実績を基準にして引続き環境負荷物質の削減に取り組みます。

1.中期目標(2025年2月18日策定) 中部電力二酸化炭素排出係数0.406を使用

原単位で目標値以下になるよう活動に取り組む

	CO2排出総量	CO2排出量	産廃排出量	化学薬品使用量	排水量	グリーン購入の推進	クレーム件数
2024年(基準年度)	215724.28kg-CO2	187.96kg-CO2/t	14.18t	57915kg	195804m ³	72.5%	0件
2025年目標値	213567kg-CO2		14.03t	57336kg	193845m ³	74%	0件
2026年目標値	211410kg-CO2		13.89t	56757kg	191887m ³	75%	0件
2027年目標値	209253kg-CO3		13.75t	55479kg	191888m ³	75%	0件

基準年度の見直し	☐ 変更なし ☒ 変更あり	基準とする年度 基準年度の実績	2024 年度 稼働日 246 日 / 営業時間 2328 時間 / 生産高 16124 千円 / 生産量 1147.68 t
----------	---	--------------------	--

2.環境活動計画

環境活動			活動目標			
			目標達成するために行う事	実施期間	責任者	担当
1	CO2排出量削減	納期を確保することで効率を重視した工程運営をする	データを分析により目標の策定に用いる	年間を通して	古林	古林由
		自社便は顧客指定のみ、他を外注へ委託する	県外への納品、引き取りを外部委託	年間を通して	古林	小林
2	産業廃棄物排出量の削減	工程中の不良による再処理品の削減	不適合品率(不良数/生産数) A、K、S、B製品10.0%以内	毎月目標達成する事	古林	宮田
		塩酸、アルカリ、三価クロメートの液寿命	三価2回/年、汚泥2回/年、混合廃棄物2回/年	年間を通して	古林	増田
3	化学薬品使用量の削減	再処理の数量を削減する(工程品質の向上)	自社で液分析をし必要な分のみ注文する	毎日の在庫チェック	豊泉	宮田
4	排水量の削減	適正な排水処理、流水の無駄を削減	計器類(ORP、Ph計)の自主点検、記録表 法令順守、外部業者の抜き打ち検査	毎日 1回/4週間	古林	古林由
5	グリーン購入の推進	事務用品・消耗品のグリーン購入	梱包用品の節約、グリーンマーク製品の購入推進	年間を通して	古林由	上山
6	外部・客先からのクレームゼロ	顧客・周辺地域・住民からのクレームゼロ	法令順守、地域の活動に積極的に参加する	年間を通して	古林	古林由
		環境活動における従業員への環境教育、意識向上	毎日の終礼、製造部会議(2回/年)	年間を通して	古林	古林由
7	工場内老朽化修繕	耐震補強、自然災害(台風など)による破損箇所修繕	(必要の場合)工場内屋根、柱の補強	2025年12月末までに	古林	古林由

3 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、違反、訴訟等の有無

法令	遵守すべき内容	適用を受ける設備・書類	担当者	遵守状況
水質汚濁防止法	排水基準	排水処理施設 計量証明書	古林	排水基準値 立入検査(9月) 問題なし
水質汚濁防止法	特定施設の 届出	電気めっき施設 (排水処理施設含) (水質2種)	古林	届出確認済 問題なし
振動規制法	特定施設の 届出	振動(プレス機)	古林	届出確認済 問題なし
騒音規制法	特定施設の 届出	騒音(切断機)	古林	届出確認済 問題なし
フロン排出抑制法	室外機の点検	エアコン室外機	古林	実施済
安全衛生法	作業環境	作業環境報告書	古林由	問題なし

毒物及び 劇物取締法	毒物劇物取扱 責任者の選任 届出内容の確認 貯蔵設備の管理	薬品貯蔵庫	古林由	資格確認 届出確認済
廃棄物の処理及び 清掃に関する法律	処分業者との契約 マニフェスト管理	産業廃棄物管理表 業務委託契約書 マニフェスト	古林由	マニフェスト照合 確認済
	特別管理産業廃棄物 管理責任者の選任	特別管理産業廃棄物 管理責任者	古林	資格確認 問題なし
静岡市産業廃棄物の 適正処理条例	実施確認	現地の確認	古林	実施済
PRTR法	SDS 第1種指定化学物質 第2種指定化学物質	製品安全シート	古林由	問題なし
浄化槽法	法令点検 記録保管	浄化槽点検記録	古林由	定期点検済 問題なし

環境関連法規に關しての順守状況確認の結果、違反はありませんでした。
 関連機関からの指摘や、利害関係者からの訴訟は過去3年間ありませんでした。

2025年1月20日
 環境管理責任者 古林 由記子



代表者による全体評価・見直し

2025年2月19日

統括責任者： 古林克匡

管理責任者： 古林由記子



情報	項 目		確 認	環境システムの有効性、取組みの適切等
	☒	エコアクション文書	活動レポート	<コメント> 今年度は後期の受注量は伸びたが、年間通しての生産高は減少。薬品の国内製造元が事業撤退となり、海外から調達するようになるため、価格・品質ともに検証する必要がある。(2026年以降) 目標未達の項目については目標達成可能な対策を策定する。(今期は生産トン数算出基準を値上げにより変えたため) 2025年は原単位での削減を目標として活動を行い、2026年度以降の目標値設定を改めて精査する。 また人員不足による納期遅れ、工程品質の低下を招かないよう早急に人員確保に努めたい。
	☒	環境目標及び達成状況	活動レポート	
	☒	活動計画及び実施状況	生産高の減少	
	☒	環境関連法要求一覧及び遵守状況	違反項目なし	
	☒	問題点の是正・予防処置の実施状況	人員確保	
	☒	取引・仕入先等の外部動向	クレーム0を継続する、価格の見直し	
	☒	その他	休日の確保	

評価・見直し	変更の必要性	見直し項目	有の場合 指示事項記載
	無	環 境 方 針	
	有	環 境 目 標	生産1トンに対しての目標値から総排出量(原単位)での目標値に設定し直すことを検討し、運用する。
	有	環境活動計画・取組み項目	コスト見直し
	有	組 織	人員確保、社員の意識向上(品質、環境)、外国人とのコミュニケーション
	有	その他のシステム	ISO9001との連携